



当大社巫女より全日空客室乗務員に手渡された若布

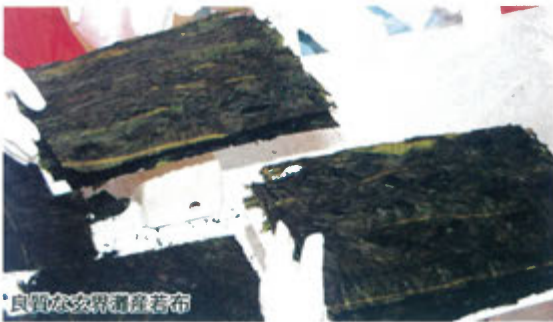
第四十七回 若布献上

賢所、天皇・皇后両陛下、皇太子・同妃両陛下、三笠宮殿下へ献上

三月十七日、早春の玄界灘の天然若布を賢所、天皇皇后両陛下、皇太子同妃両殿下、三笠宮殿下へ献上を、神島宮司、廣渡正氏(宗像漁協副組合長理事)、上妻良美氏(宗像漁協津屋崎支所長)、随行神職の四名が宮中へ参内し、恙なく献上申し上げた。

この皇室への若布献上は、昭和三十八年に、「宗像七浦」と称される、大島・鐘崎・神湊・勝浦・地ノ島・津屋崎・福岡の組合員で結成された「宗像大社海洋神事奉賛会」設立の際に、宗像大神の御神徳が、国家・皇室の守護であるということから、皇室の御安泰と聖寿の長久万歳を祈念して始められた。今年で四十七回を迎えたこの「若布献上」は、秋の「みあれ祭」と並び、同会の一大行事である。

若布は二月末頃より地ノ島沖で採取が始められた。



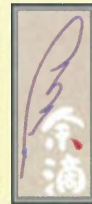
良質な天然産若布



遷宮で結ぶ人の輪心の輪
第六十二回神宮式年遷宮

5月祭事暦

- 毎月1・15日 月次祭
午前10時～
高宮祭
第二宮・第三宮祭
宗像護国神社祭(1日)
午前11時～
総社祭
浦安舞奉奏(1日)
豊米舞奉奏(15日)
5日 五月・浜宮祭
午前10時30分～浜宮祭
於=宗像市神湊 浜宮
午前11時～五月祭
於=宗像市江口 五月宮
27日 沖津宮現地大祭
午前7時大島港 出港
於=沖ノ島・沖津宮



数年前、福岡県神道青年会の研修会において現

総理大臣である麻生太郎首相の講演を拝聴出来た。その中で「現在、環境問題が論議されていますが、鎮守の森と言われるように全国津々浦々、森の無い神社はありません。神社は昔から自然を大事にしてきました。これは世界に誇れる信仰ではないでしょうか」と言われた。私にしてみればあまりにも基本すぎて、逆に忘れていたような気がした。それから神道の原点である「自然崇拜」を再度意識するようになった。宗像大社は沖ノ島や辺津宮の高宮祭場に見られるように、特に「自然崇拜」の要素が強い神社である。日本人は古代より自然に対し畏敬の念を持ちながら自然の恵みに感謝し、時には恐れを持って生活しているうちに、それを神として表現し、いつしか神社を建立して伝統を守ってきた。

経済危機と言われているが政治では国民の生活を考える以前に政権抗争の方が優先に見えてしまう。環境をビジネスに考える構想も沢山あるが、日本人が昔から培ってきた「自然崇拜」に対しての考えを再認識すれば他国とは違った、環境への取り組みや新たなビジネスが生まれ、環境を通して、世界をリード出来る日本復活の更なるヒントがあるような気がする。

(葦)

神具・装束・授与品

装束店 〒600-8503 京都市下京区油小路通六条上る
フリーダイヤル 0120-075-980
福岡店 〒812-0068 福岡市東区社領1-12-10-401
フリーダイヤル 0120-055-092
授与品店 〒601-8348 京都市南区吉野院観音堂町23
フリーダイヤル 0120-075-820

木組の家 匠の技

総合建築業 株式会社 弘江組

〒811-3406 福岡県宗像市稲元4丁目20 電話(0940)32-2567



搭乗客の皆様には神職、巫女から記念品をお渡ししました

海上が時化する事が多かったが、関係者の御尽力により、肉厚で磯の香りが強い良質な若布を採取することが出来た。採取された若布は、「椿油」を塗った板で天日干しされ、三月二日に当大社へ納入され

た。その後、神職と巫女が一定量づつ測り、杉箱に納め献上用として完成した。

献上前日の十六日、本殿で献上奉告祭を斎行後、一同出社。福岡空港では、当大社巫女より若布を空路運んでいただ

く全日本空輸(株)の客室乗務員へ、若布を手渡すセレモニーが行われ、周囲の方も注目されて様子を见守っていた。また若布と同便で搭乗された方々には、記念品として張子の置物も配られ、乗り合わせた方々は笑顔で受け取っておられた。

現在は、飛行機で上京しているが、献上初期の頃は、新幹線も開通しておらず夜行列車に乗り、上京



納入された若布を一定の量に袋詰め

していたそうである。上京した一行は、翌十七日午前十時皇居坂下門より参内、宮殿にて神島宮司が記帳の後、掌典長井関秀男氏に若布献上の旨を言上、掌典長を通じ賢所へ献上し、更に侍従職、大村卓司氏を通じ、天皇皇后両陛下に献上申し上げた。続いて宮中三殿参拝の栄に浴し、宮中での献上の儀、滞ることなく終えた。

宮中を辞した一行は、赤坂御所へ向かい、東宮侍従職坂根工博氏を通じて、皇太子同妃両殿下へ献上申し上げ、三笠宮付宮務官板倉孝治氏を通



杉箱に納められ神社を出発する献上用若布

本年の若布献上者は左記の通り。

宗像大社

宮司 神島 定
権禰宜 松林 拓

宗像漁業協同組合

副組合長理事 廣渡 正
津屋崎支所長 上妻 良美

じ三笠宮殿下へ献上申し上げた。ここに、本年の若布献上の儀、無事に終了した。若布献上が終わると、神郡宗像には春がもうそこ迄、近づいている。



尚、本年も全日本空輸株式会社様、出光興産株式会社様を始め多くの皆様にご支援賜り、略儀ではございますが紙面をもちまして厚く御礼申し上げます。



福岡空港でのセレモニー



奉告祭を終えた本年の献上者

沖津宮・中津宮春季大祭並 天皇・皇后兩陛下御結婚満五十年奉祝祭齋行

四月九・十日の両日、筑前大島で宗像大社沖津宮・中津宮両宮の春季大祭並びに、天皇

皇后兩陛下御結婚満五十年奉祝祭が齋行された。前日より沖・中両宮奉賛会、



沖・中両宮敬神婦人部、並びに沖・中両宮翼賛会の皆様に御奉仕頂き大祭の準備を行なった。

今年是全国的に桜の開花が早く、境内の桜も盛りを過ぎてはいたが、晴天に恵まれた九日午後三時より中津宮地主祭、同四時沖津宮宵宮祭、同五時中津宮宵宮祭が齋行され、終了後には中津宮社務所にて、明日の打ち合わせを兼ねながら一同で直会を行った。

翌十日は晴天の中、午前八時半より宮崎区の厳島神社祭、同九時からは島の北側に鎮座する沖津宮遥拝所で沖津宮大祭、同九時半からは島の最高峰御嶽山頂(標高二二四㍎)に鎮座する御嶽神社祭が齋行された。

同十一時より、中津宮春季大祭並びに、天皇皇后兩陛下御結婚満五十年奉祝祭が齋行された。高向権宮司を齋主に氏子奉幣使として村上秀一氏

が奉仕する中、巫女による「浦安舞」も奉奏され、島民はもとより島外より多数の皆様に参加頂き、厳粛に祭典が齋行された。その後、昨年度に献魚・献品をご奉納戴いた皆様に感謝状を贈呈し、照海殿で賑やかに直会が開かれた。

午後一時からは、神賑行事として大島小学校児童全員参加による奉納相撲大会が、沖・中両宮翼賛会のご奉仕により本殿横の土俵で開催された。途中、職員の飛び入り参加もあり、一層の賑わいを見せていた。

活気に溢れる中、五穀豊穡と豊漁を祈る沖・中両宮春季



沖津宮遥拝所での沖津宮春季大祭

大祭は無事に終了した。また、沖・中両宮春季大祭に際して、御協賛、御奉仕賜りました皆様に厚く御礼申し上げます。



功労者の皆様には感謝状と記念品をお受けいただきました



氏子奉幣紙を御奉仕された村上秀一氏

春季大祭 齋行

天皇・皇后両陛下御結婚満五十年奉祝祭

四月一・二日の両日、春季大祭が斎行された。三月の三十日には早朝より地元総代並びに協力会の皆様のご奉仕により、注連縄、紙垂の取り替え等が行われ、大祭を迎えるばかりとなった。

当日、桜の花も驚き、花開くのを留まらせるような、冬の寒さのまい戻る、寒空の下で齋行となったが、境内は多くの氏子・崇敬者で賑わいを見せた。四月一日午前十一時、高向権宮司以下神職、氏子奉幣使、鎮国寺立部瑞真副住職、主基地方風俗舞保存会員、浦安舞奉仕者、総代等が齋館前に列立し被所で身を清め本殿へ

と参進。高向権宮司が国家鎮護・皇室安泰・五穀豊穰を祈念する祝詞を奏上、続いて氏子会を代表し石田剛明氏(宗像市東郷)が奉幣詞を奏上した。その後、保存会の御奉仕により、宮中舞樂の手振りを伝える「主基地方風俗舞」、更に玄海中



「浦安舞」が奉奏され、春を告げる神苑に悠遠な平安絵巻が繰り広げられた。

翌二日は、午前十一時より二日祭が斎行され、海上安全、大漁満足が祈念された。祭典後には海洋神事の功労者に対し、当大社より感謝状と記念品が贈呈された。

その後、高宮、第二宮、第三宮、宗像護国神社へと、各神職・参列者がそれぞれの祭場へ進み、各所で春祭が斎行された。

宗像護国神社春季大祭では、宗像・福津両市の御遺族をはじめ多くの崇敬者が参列される



氏子奉幣紙を御奉仕された石田剛明氏



表彰された海洋神事功労者の皆様

主基地方風俗舞奉仕者

(舞方)	清水 洋介	(歌方)	石津 典秀
	松井 徳一郎		兼二
	中野 久志		正徳
	吉田 光利		武志
			拓成
			小林

浦安舞奉仕者

中野 ふみな	八尋 美咲紀
中野 ひとみ	橘 沙也加

感謝状贈呈者

田中 幸雄	永島 善行 (宗像漁業協同組合/本所)
宮本 昭則	田志 正弘 (宗像漁業協同組合/大島支所)
田上 剛	児島 寛治 (宗像漁業協同組合/地ノ島支所)
矢野 竹虎	田畑 洋一 (宗像漁業協同組合/福岡支所)
石谷 利行	占部 実 (鐘崎漁業協同組合)
永島 栄	間 利夫 (宗像漁業協同組合/津屋崎支所)



中、護国の英霊をお慰め申上げると共に、遺族並びに両市民の弥栄が祈念された。
同刻儀式殿に於いては、交通安全講話祭が斎行され、講員皆様の今年一年の交通安全が祈念された。
午後二時から、本殿に於いて献茶祭が行われ日頃学んだ茶道の成果を、当大社巫女を代表して、清水巫女長が、南坊流の袱紗さばきも爽やかに御点前を披露した。

大神事も滞り無く終了した。この春季大祭であるが、戦後間もなく(昭和三十年代)までは、春のこの時期に当大社所蔵の御神宝・古文書を虫干しし一般に公開する祭事が行われていた。これを秋の「放生会じょうえ」に対し「保存会」と称し、人々の楽しみとなっていた。
昭和三十九年の宝物館竣工に伴い、保存会の呼称も消えていったが、今も昔もこの保存会(現「春季大祭」)の時期は、神郡宗像に春を告げる行事として多くの人々が境内に足を運んでいる。

尚、八日には天皇・皇后両陛下御結婚満五十年奉祝祭が、責任役員、氏子会長、地元総代、崇敬者多数参列の下、境内裡に斎行された。
本来の慶祝日は十日で宮中での行事もその日に行われたが、当大社では大島の沖・中両宮春季大祭の祭日と重なり、辺津宮ではそれに先立つ八日に、沖ノ島・大島で十日に宗像三宮で奉祝の祭事が厳粛に斎行された。

宗像観光協会主催 鎮国寺花まつり

宗像大社・鎮国寺を稚児行列

春麗かな陽気に包まれた四月五日、鎮国寺花まつりの稚児行列が行われ、宗像大社より鎮国寺までの約一キロを稚児凡そ百五十名を含む延べ百名が参加した。
この「花まつり」は宗像観光

協会が主催し三月二十九日より四月二十八日までの一ヶ月間鎮国寺で開催されており、地域の子供達に両寺社を身近に感じてほしいと、期間中お釈迦様の誕生日である四月八日に合わせこの稚児行列が催され今年で三年目となる。



当日は快晴に恵まれ続々と稚児達が参集、稚児衣装に身を整え午前十一時当大社拜殿において正式参拝し宗像大社氏子青年会、ボーイスカウト・当日乗馬を準備いただいたカナディアンキャンプの誘導・警護のもと約三百名の大行列は鎮国寺へと



向かった。
同寺へ到着すると恒例となつた玄界高校邦楽部による太鼓演奏・表千家三上宗生祥氏による野点・振舞い鍋等に加え餅撒き大会が本年より催され、両寺社の春の一日は大いに賑わいをみせた。



春季奉納剣道大会

雨天により玄海中学校体育館で開催

四月五日春季恒例の奉納剣道大会が行われた。例年は当大社本殿横で行われているが、前日の雨という予報もあり、昨年同様、予備会場の玄海中学校体育館で開催された。

午前九時の開会式には、参加選手(小中学生)・審判員・父兄ら多くの人が体育館に集合、一同神職よりお祓いを受け宗像大社を遥拝した。その後、日本剣道形関係者のみ当大社へ移動し、御神前へ居合の演武を奉納した。

試合が始まると、日頃稽古で鍛えた成果を発揮しようと、掛け声を張り上げて相手に挑む姿が印象的であった。約六時間に亘り繰り広げられた熱戦も午後三時には幕を閉じ、一喜一憂様々な表情で体育館を後にしていた。



団体戦 優勝

小学生の部
日の里剣道教室
中学生・男子
玄海中学校
中学生・女子
自由ヶ丘中学校

個人戦 優勝

小学1年生 下川 大雅(河 東)
小学2年生 宮崎 滉大(日の里)
小学3年生 荒木 将成(東 部)
小学4年生 熊谷 有紗(東 部)
小学5年生 厚 嫺(東 部)
小学6年生 永井 拓磨(日の里)
中学生/男子 池田 旋(日の里 中)
中学生/女子 池田 彩夏(自由ヶ丘中)

新人紹介

4月1日付で、巫女六名の職員が新たに加わりましたので、下記の通り、ご紹介致します。

①名前 ②生年月日(年齢) ③出身 ④経歴 ⑤奉職理由 ⑥特技(趣味) ⑦抱負

巫女



① 澤崎 有希
(さわさき・ゆき)

②昭和63年6月12日(20歳)
③広島県
④銀河学院高等学校
東海大学福岡短期大学
⑤日本の文化に興味があり、礼儀作法等を身につけたいと思い奉職しました。
⑥旅行。大都市よりも自然豊かなところをいろいろと訪れたいです。
⑦地元の方子さん、遠方から参拝された方に、宗像大社にお参りしてよかったですと感じていただけるような社頭対応をしたいと思っています。



① 田中 志保
(たなか・しほ)

②昭和63年7月28日生(20歳)
③遠賀郡岡垣町
④八幡中央高等学校
東海大学福岡短期大学
⑤宗像大社に参拝し、巫女さんを目にし素敵だと思いました
⑥音楽鑑賞、ダンス、ドライブ(勿論お祓い済)
⑦宗像大社や神社に関する知識を身につけ、参拝者の方々とスムーズにコミュニケーションがとれるようにいろいろと勉強させていただきたいと思っています。



① 立川 侑佳理
(たちかわ・ゆかり)

②昭和63年12月31日(20歳)
③福津市
④東海第五高等学校
東海大学福岡短期大学
⑤地元で以前から日本の文化に関心を抱いており、伝統文化や慣習に興味があり奉職しました。
⑥音楽鑑賞、ドライブ(母といろいろな所に行くのが楽しみです)
⑦日々神社のことを勉強させていただき、宗像大社の神様に恥じない行動を心がけたいです。



① 山口 詩織
(やまぐち・しおり)

②平成元年1月21日(20歳)
③宗像市
④東海大学附属第五高等学校
東海大学福岡短期大学
⑤以前から初詣などで参拝はしていましたが、一般企業と異なり神社という特殊な業務内容に興味があり奉職しました。
⑥水泳、ピアノ、書道
⑦様々な知識を身につけ、授与所での業務に生かせるよう頑張りたいと思っています。



① 高田 優
(たかた・すぐれ)

②平成2年4月11日生(19歳)
③福岡市東区
④福岡工業大学付属 城東高等学校
⑤幼少から何度も参拝していた神社でしたし、高校に求人がきたため奉職を希望しました。
⑥サックス(吹奏楽部でした)、免許はまだ取ってませんが、早く車を運転してドライブに行きたいです。勿論、お祓いをしていただいて。
⑦氏子さんや参拝者、神職さんや巫女さんをはじめとした職員、皆様から信頼される巫女、人間になるのみです。



① 神野 彩
(かみの・さやか)

②平成2年7月31日生(18歳)
③北九州市若松区
④折尾愛真高等学校
⑤毎年家族と参拝しており、高校の先輩が何人も奉職している宗像大社の巫女に、私もなりたかったからです。
⑥テニス(硬式テニスでは団体で全国大会に出場しました)、ライブ(コンサートに行くのが好きです)
⑦明るく笑顔で元よく参拝者の皆様に接したいと思っています。

(続)

浜の寄物

235

いしいただし



出島和蘭陀商館長の江戸参府は將軍にお礼を言上し贈物を献ずるために行われた。一六三三年〜一八五〇年まで一六六回である。医師、通詞等が付き添った。日本側の同行者は検使一名・下役二〜三名・年番の大通詞・小通詞・各一名以

下・筆者・賄方・宰領・従僕などの小者で、シーボルトの江戸参府では、日本人の随行者数は五十七名であった。一行の江戸滞在は二〜三週間が普通で、宿舎は日本橋・本石町の長崎屋源右衛門方であった。

任。日本の動植物、地理、歴史、言語を研究。長崎に鳴滝塾を開いた。二十八年帰国の際、国禁の地図が発見され、罪を問われた(シーボルト事件)。五十九年再び来日、幕府の外事顧問となった。六十二年出国。

シーボルト一行は一八二六年長崎を出立したが、長崎―豊前小倉までが五十七里一町二十間半(約二二八キロ)あり、また原田―黒崎間約五十八キロ、この間の宿は筑前六宿と呼ばれた。

長崎出島、そして長崎路(街道、脇往還とも呼ぶ)は、ヨーロッパ最進の文化を運び、それを学ぶ蘭学者や好學に燃えた若者が目指した。また象や駱駝などの珍獣も通ったところである。江戸参府紀行は長崎路や宿場・見聞の様子もこまかに記述されているし、將軍拝掲の様子も興味つきないものがある。



出島倉庫群



VOC貨幣

長崎―江戸間に要した日数は最長一四二日間、短くて六十七日間、九〇日間前後が普通であったという。

シーボルト(一七九六〜一八六六)はドイツ人、和蘭陀商館医であり、博物学者。一八二三年(文政六)に商館医として長崎に着

任。日本の動植物、地理、歴史、言語を研究。長崎に鳴滝塾を開いた。二十八年帰国の際、国禁の地図が発見され、罪を問われた(シーボルト事件)。五十九年再び来日、幕府の外事顧問となった。六十二年出国。

五月一日將軍(家齊)に拜謁、五月十八日に江戸を出発、七月七日に出島に戻っている。

自分の領土から江戸へ行き来する大名の絶え間ない行列。活発な国内商業、その貨物の集散地大坂にはこの国のあらゆる地方から売手や買手が殺到するし、また巡礼旅行も非常に盛んである。あたかも平常の静さと孤独をそれで埋めあわせようとしているかのようである(江戸参府紀行・東



筑紫野市 山家宿 横口(かまえぐち)



生産用 駱駝のれん



木屋瀬宿 横口(かまえぐち)

五月一日將軍(家齊)に拜謁、五月十八日に江戸を出発、七月七日に出島に戻っている。

第五七三回 宗像大社歌会詠草

大野展男選 毎月25日メ切



【評】 福津市 若木台 野間 精一
海人を詠みし万葉歌を問はれたりすぐには出でず口惜しかりけり
万葉集を第一としたアララギ系の歌人ならではの、自負と無念さ。

【評】 寒中にクリスマスローズの紅き花俯きしまま密やかに咲く
うきは市 浮羽町 向 則正
「うつむくやさしさの花」とも呼ばれているクリスマスローズの特性を良くとらえているが、四句を受けの五句は「二輪ひらけり」などとしたい処。

【評】 バケツの水運びておれば海からの風あたたかきことに気づけり
福津市 星ヶ丘 佐々木和彦
かすかな春の気配を感じた一瞬歌人ならではの鋭敏な感性である。

【評】 北九州市 八幡西区 吉田ウト子
方丈のまさぬみ寺にみつみづと朱をともせる拾遺の西王母
静寂な寺庭を背景に西王母と呼ばれる椿の花の色が鮮やかに浮び上ってくる。

【評】 宗像市 田久 巻 桔梗
地の島の板干しワカメさすたけの大宮びとは仲良く食すや
「さすたけ」は、君、大宮、皇子などにかかる枕詞。献上の若布を通じ宮中の人々に思いを馳せる作者である。

【評】 宗像市 土穴 山本 静子
子がくれしローマ字電子にとまどいて漸く出たり春風駘蕩
進化する電子化、に付いて行けない世代のうた。ローマ字は春風駘蕩だったのか、ローマ字を読み得た気持ち
持ちが春風駘蕩なのか判りづらいのが残念。

【評】 宗像市 大島 杉田 禮子
くるくると右に左に廻りつつ鳥賊かわきゆく汐風受けて
大島らしい一首。寒の海風に乾いたスルメはさぞ旨いことだろう。

北九州市 八幡西区 豊田ミツ子
得しことと喪へるもの交錯し過去へ過去へところのはしる
加齢したもののみが知る心情をしつとりと、しかもリズム良く詠つて悲壮感の無いところがいい。

【評】 宗像市 田久 井上 光
傘寿の賀に妻の幸子は三十に若返りますと乾杯したり
夫婦愛に溢れたうた。ほのほのとした雰囲気伝わってくる。

【評】 宗像市 東旭ヶ丘 天野 玲子
春の日のぬくもり受けて縁側にいつか居眠る母のせしごと
北九州市 戸畑区 田中ハツセ
縁先の小梅桜がほころび初む今年の花見は小さな桜

【評】 豊田さん井上さんの二首に対し、こちらの二首は、加齢した己の日常を具体的に叙述して好ましい。
宗像市 田野 森 甲子

【評】 思ふやう体動かぬもどかしさも嫁と頂くキムチの旨し
キムチの味合いからも喜びを汲み取る。歌人冥加のひとつときである。三句の「も」の働きに注目。
福津市 光陽台 香月 照子

【評】 雪柳はくもくれんまた連翹花ベットの窓辺に春は過ぎゆく
春の花の名を並べて述べて過ぎてゆく春の季節を惜しみ且つ嘆いている。
福津市 中央 池浦千鶴子

【評】 この道を右に曲がれば山桜盛りし頃を案じて急ぐ
宗像市 日の里 大和美由紀
公園にまだ調はぬ鶯の若若しき声あかつきに聞く

【評】 満開の山桜を待ちがてにしている池浦さん。鶯の声の整ってくるのを心楽しみにしている大和さん。それぞれ具体的に述べて春を待つところを詠っている。
福岡市 南区 加野シノブ

菜の花やすみれ桜と咲き匂う自然の姿にうすれし心
福岡市 南区 井田有久衣
半年で金婚式をむかうるに夫は召されて黄泉に旅立つ

【評】 せはしくて見ることもなかりし冬庭に自ら皮を剥ぐさるすべり
露の臺また沈丁花匂ふもの雨やみし今朝の庭より採りく
料らんと組板の上のせるとき寒のスズキのうろこは光る

第五四八回 俳句作品集

宗像市 神湊 永島 紀子
雪積むや千枚田畑無一物

宗像市 平井 占部 詩子
ほつほつと映の春灯杏いろ

福津市 勝浦 高山 睦子
散歩道只今桜二分咲きに
宗像市 日の里 花田いつ枝
鴨帰る湖に真白の雲残し

編集後記

当大社では昭和三十五年より、参拝者の皆様からの浄財を「宗像大社奨学金」として宗像・福津市内の中学校二十校の卒業生に対し、各校二名ずつ支給してきました。現在も時折、生前妻が支給を受けており、無事退職し、市役所に就職した等、様々な御報告が寄せられます。先月末には新奨学生を含む本年度の奉告祭が斎行されましたが、ここ数年の学生は人の話が聞けなかつたり無反応であったりと、神社の奨学金を理解できていないのか疑問視もしていました。ところが先日、素行が良いとは言えなかつたかつての奨学生が、車を購入したのか、友人と「車被」に來社していました。週末で多くの祈願者があり特に声はかけませんでした。充分に彼ら彼女らには通じていたようです。今年の新入生で第五十期と節目を迎え、奨学生の数も延べ七九五人に達しました。宗像大神様との御神縁を大切にしながら、奨学生の活躍を祈念しております。(塚)

宗像大社社務所 発行所 宗像

〒811-3505 福岡県宗像市田島
電話 0940-62-1311(代)
発行人 重津幹之
編集人 大塚宗延
制作 ゼネラルアサヒ
印刷 ゼネラルアサヒ

毎月1日発行 定価1年送料共1,000円